

## 薬害教育教材に関するアンケート調査(平成 27 年度)の結果について(概要)

### 1 目的

中学 3 年生を対象とした薬害教育教材「薬害を学ぼう」について、教材のより有効な活用方法等の検討につなげるため、教育現場での使用状況、問題点等を把握する。

### 2 調査対象

全国の中学校 (11,119 か所)

### 3 調査内容

- (1) 使用状況 (教科、採り上げた単元)
- (2) 教材の発送時期 (適否、その理由)
- (3) 教材等への感想・意見、教材の活用方法・工夫等

### 4 調査方法

以下の手順により、事務局において調査を実施。

- ① 平成 27 年度分の教材の発送時 (平成 27 年 4 月 30 日) にアンケート用紙を同梱し、中学校において必要事項を記載するよう依頼。
- ② 中学校から事務局あてに返送。返送期限：平成 27 年 7 月 24 日)

### 5 調査結果の概要

- (1) 回収率 15.3% (1,703 か所)

※ 平成 26 年度：11.4% (1,269 か所)

- (2) 結果の概要 別紙のとおり。

## 調査結果の概要

## 1 調査結果一覧

	質問内容	主な結果	合計
問1	使用状況(予定含む) 【注1】下線部は平成26年度の割合 (以下同じ) 【注2】このほか、未記載13件、その他7件がある	①授業で使用(予定):754(44.3%) ← <u>531(41.8%)</u> ②配布(予定):866(50.9%) ← <u>661(52.0%)</u> ③使用・配布の予定はない:63(3.7%) ← <u>78(6.2%)</u>	1,703
	(1)教科	①社会科:489(62.2%) ← <u>323(58.7%)</u> ②保健体育科:232(29.5%) ← <u>165(30.0%)</u> ③総合的な学習の時間:40(5.0%) ← <u>20(3.6%)</u> ④その他:52(6.6%) ← <u>22(4.0%)</u> (※複数回答あり)	786 【複数回答】
	(1)-2 取り上げた単元 (自由記述)	「人権」368 ← <u>139</u> 「消費者の保護」156 ← <u>63</u> 「公害」116 ← <u>29</u> *平成26年度は「公害問題・社会問題」  「医薬品の適正使用」156 ← <u>87</u> 「エイズ・感染症の予防」125 ← <u>37</u> 「薬物乱用」140 ← <u>16</u>  その他31件 (主な内訳) 薬害3、行政の働き3 裁判・賠償6、薬・健康4 時事問題1、企業倫理1 (※複数回答あり)	781 【複数回答】
問2	教材の発送時期 (平成27年度当初に発送)	①ちょうどよい:1,322(77.6%) ← <u>736(57.4%)</u> ②早すぎる:313(18.4%) ← <u>404(31.5%)</u> ③遅すぎる:11(0.6%) ← <u>90(7.0%)</u> ④未記載等:57(3.3%)	1,703

	質問内容	主な結果	合計
	早すぎる又は遅すぎると回答した場合の理由と時期の内容 (自由記述)	(主な意見) 【早すぎる】 ・ 公民の授業開始が、1 学期後半～ ・ 年度当初は他の書類の送付も多く、多忙のため、後にずらしてほしい、 ・ 保管が長くなるため大変 ・ 年度末の処理の多忙な時期は避けてほしい ・ 事前のお知らせ文書は不要、年度をまたぎ、学校の担当者が代わることでかえって混乱する 【遅すぎる】 ・ 新年度が始まる前に届くと、教科の授業計画に組み込みやすくなる ・ 送付されることが前年度から分かっていると年間の指導予定に組み入れることができるので、送付の連絡だけでも前年度末に欲しい	324
問3	授業での活用方法、工夫した点等(自由記述)	※ 詳細については、2を参照	509

## 2 教材や活用の手引についての感想・意見、授業での活用方法・工夫、活用に当たっての問題点(主な記述)

### ▶ 授業の中で活用(副教材、参考資料等として)

#### (1) 社会(公民的分野)で活用

- ① 社会の教科書の中身に、必ずしも内容が一致しないので、薬害と関わらせながら扱うのに、やや扱いづらいところがある。
- ② 請求権との関係、公害の学習等で、資料として簡単ではあるが触れている。
- ③ 裁判の箇所では扱う予定。
- ④ 人権に関する学習の際に使用する予定。例えば、平等権(差別のない社会)。
- ⑤ 消費者の保護で使用予定。
- ⑥ 薬害が起こらない仕組みを考える(消費者の立場として)教材としては、展開が難しい、その仕組みが存在しうるのか、と思った。
- ⑦ 薬害について正しく理解し、差別をしないような社会をつくるためにどうすればよいかを生徒に考えさせていきたい。
- ⑧ 「人権」の一般の障害者とも、「公害」とも「消費者」とも微妙に異なるように感じた。
- ⑨ 使用に当たっては、保健体育や家庭科とも連携して使用したい。

#### (2) 保健体育で活用

- ① 保健で扱うのは難しい。
- ② 社会科の指導内容には入れづらいので、保健体育・保健指導で扱うことについて再検討してほしい。

- ③ 保健指導の授業で扱うことは難しかった。
- ③ 社会科より保健で学習する内容なので、説明文の一部を訂正してほしい。
- ④ 医薬品の利用の単元で使用予定。
- ⑤ 薬物等を学ぶ際にあわせて配布予定。
- ⑥ 社会科の資料として内容は充実していると思うが、保健体育科の内容としては方向性が混乱を招きかねない。留意事項に基づいて活用を図る必要がある。
- ⑦ こうした資料があると、生徒の興味・関心が高まることと、持ち帰って家族と話し合えることなどから、とても有意義であった。保健体育の時間の中で「とても大切なこと」として扱うと心に響く。
- ⑧ 「健康な生活」と「疾病の予防」で関連を図り、指導を行っていきたい。

### (3) その他の授業等で活用

- ① 内容として、保健体育や社会で扱う単元がないので、総合的な学習で取り扱うことになると思う。ただし、自分のところではすでに総合的な学習で実施することが決まっていたので、配布のみとした。
- ② 人権に関する作文指導の資料としても活用しており、とても助かる。
- ③ 昨年度は保健体育で扱ったが、本年度は人権・消費者問題として扱う予定。人権で扱う場合は総合的な学習の時間で扱うかもしれない。
- ④ 特別活動等で利用したいが、配布にとどまっている。
- ⑤ 総合的な学習の時間に3年生は人権課題について学習に取り組んでいる。また、3年生は薬物乱用防止教室も行っており、その前後に配布している。
- ⑥ 短学活で配布し補足説明等を行っている。
- ⑦ 保健体育の授業でも少しは考えることができるが、中学校では学級活動が適していると思う。
- ⑧ 保健室で掲示した。

#### ➤ 薬物乱用防止等と併せて活用

- ① 薬害と薬物乱用の違いを意識できた。
- ② 薬物乱用防止教室や健康教室の事前／事後指導用資料として配布する。薬害問題について、薬物乱用防止と違うことを指導する。
- ③ 薬物乱用と薬害の区別がついていなかった生徒がいたため、その違いについて説明するとともに、薬害エイズからH I V／エイズの人権問題に絡めて指導をした。
- ④ 保健集会（薬害や公害病をテーマとしたもの）の資料として活用予定。
- ⑤ 薬害と薬物乱用が混同しないように十分な説明をした。
- ⑥ 講師（薬剤師や警察）を招いて薬学講座を実施しているが、そこで様々な資料が配布されるので、もらったパンフを配布する時期を考えてしまう。
- ⑦ 薬物乱用とは違う旨の説明を教材内にも加えるべき。
- ⑧ 学校薬剤師の講話の中で薬害についても取り扱ってもらった。

#### ➤ 時間がない

- ① 時間を割いて、学習内容を深めるのは難しい。十分に活用しきれない。
- ② 社会科の指導計画では、本教材のねらいを、本教材を指導しきって達成できるだけの時数が

確保できない。中途半端な扱いにより、偏見等を助長することは避けたい。

- ③ 冬の悪天候による授業時数の確保が急務の課題。そのため、配布にとどめた。
- ④ 教科書の内容以外のことをやるだけの時間的余裕がない。
- ⑤ 社会科、保健体育科ともに、薬害についてあまり時間をかけていないのが実情。
- ⑥ 限られた時数で十分な時間をとって指導するのは難しいが、資料に触れることで、このようなことがあるということを知るだけでも意味はあると思う。
- ⑦ 中学の保健体育では、薬物乱用と医薬品の正しい使い方の中で、薬害まで触れている時間のゆとりはない。
- ⑧ しっかりやるには3～4時間かかる。
- ⑨ 社会では、主に四大公害について取り組むのであり、このことを特に取り上げて授業時数を割くのは難しい。
- ⑩ 社会の「人権」でのところで扱いたいが、薬害は一つの事例として扱うため、もう少し簡単で内容もコンパクトなものにしないと時間がかかり過ぎ、採り上げられない。

#### ➤ 内容が難しい

- ① 内容をきちんと理解させ、考えさせながら指導しようとする、指導に要する時間が膨大になる。
- ② 理解力に大きな差があるので、もう少し文章やイラストなどやさしい感じにしてほしい。
- ③ 中学校の生徒には、薬害の問題は難しい。より平易なパンフ（表裏1枚）にするとよい。
- ④ 公害と薬害の関連が難しい。公害は授業で扱うが、社会科では薬害はあまり扱わなかった。
- ⑤ 薬害の現状を知るには良い教材。しかし、中3の生徒が今後どうすればいいのか、「薬害を防ぐ方法」について考えさせることは難しいと思う。
- ⑥ この資料だけで授業を作ろうとすると、専門性が高くなりすぎるため、身近な薬品の使い方とあわせて授業を組み立てた。
- ⑦ 資料のねらいが多岐にわたっていて、ポイントを絞り切れていないため、授業での扱いが難しい。

#### ➤ 補助資料が必要

- ① DVDなどの映像教材があると、もっと効果あるのではないかと。指導しやすい。
- ② 紙媒体より、DVDなどの映像教材のほうが使いやすい。
- ③ 映像資料やワークシート教材があるとさらに活用しやすくなる。
- ④ 5～15分～20分くらいにまとめたDVDなどを作成し、配布するか、各学校でダウンロードできるようにしてほしい

#### ➤ 類似する資料が多すぎる

- ① 手引きやパンフレットが多すぎ。大切なことだが、生徒への配布物が学校に集中しすぎ。
- ② 大切な学習であることは理解。しかし、あらゆる副読本が送付され、授業のどの段階でつかうべきか悩む。教える時間も少なく、少なくとも教科書はすべてやらなくてはならず、難しい状況。
- ③ 必要性は理解できるものの、多くの時間をかけて扱えない事情もある。学校には多くの関係団体から、とても多くの資料が送られてくる。

➤ 教員への情報提供等

- ① 教員である自分が勉強不足と感じた。教材の熟読もしているが、講演会などの場を用意して、教員に対して情報を提供してほしい。
- ② 被害者の声では、とても考えさせられる。
- ③ 教員においても、知識や理解が乏しく、DVDなどの視聴覚教材があると授業の一環として扱いやすいと感じた。
- ④ 生徒にとって身近でない薬を、どのようにして身近にし、教材にしていったらよいのか悩む。
- ⑤ 中学生にはやや難しい問題かと考え、学年の教員がパワーポイント資料を作成し、解説を行った。

➤ 特別支援学校からのご意見

- ① 特別支援学校であり、在校する中学3年生にはかなり難しい内容であった。
- ② 生徒個人の実態に違いがあるため、集団指導で扱うには難しい内容。必要な時に個々に指導を行っている。
- ③ 薬害と薬物乱用の違いがよくわかった。授業で使用するには難しい。
- ④ 保護者への啓発資料として、家庭へ持ち帰ってもらった。そういう使い方をするにも適切なリーフレットだった。
- ⑤ 家庭配布も難しい状況。
- ⑥ 特別支援学校では、授業での活用が難しい。薬について学ぶことは大事なので、子どもたちに伝えられるような内容が精選されたものがあつたらと思う。
- ⑦ 薬害が先に出ると、薬を飲んでいる子が困ることも予想される。
- ⑧ HIV感染の一因としての薬害に関する学習を行ったことはあつたが、その他の薬害に関して深く掘り下げたことがなかった。ぜひ活用したい。

➤ その他

- ① これから、医療関係に就く生徒もおり、真摯な姿勢で仕事に向き合うことが大切だと感じてもらうことができた。
- ② 学校の教材・資料だけではなく、第三者機関から案内があるのは助かる。また、生徒たちにとっても説得力がある気がする。
- ③ 薬害に触れつつ厚生労働省の仕事を紹介する機会として活用したい。
- ④ 被害者の実際の声を聴く機会はなかなかないので、授業の中でも生徒に読ませたいと思う。
- ⑤ 第三者としての視点で考えないように、自分の関わり方を考えさせるようにする。
- ⑥ 今後も正しい知識を学べる一つの教材として、教科とタイアップしていければと思う。
- ⑦ 消費者にはどうしようもないことがあり、恐怖心を与えるばかりである。国に対しても不信を抱きかねない。
- ⑧ 授業での活用はできませんでしたが、生徒たちの反応を見ているとずいぶんと驚いたようでした。
- ⑨ サリドマイド被害に関するDVD「典子はいま」を使って指導していたが、今般、パンフも使えるようになり、ありがたい。
- ⑩ 他校の活用状況について紹介してほしい。